

こころせい

第19号

平成20年 7 月

発行 高知厚生病院
広 報 委 員 会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

希望って何だろう

副院長 山口 龍彦



「がんを告知するなんて、生きる希望を奪うようなもの。絶対に告知には反対です。」

「希望があれば、生きられる。生きる希望を持っていたいんです。」

「私には希望があるから、たとえこのまま死んだとしても、全然かまいません。」

「夢も希望もないけれど、生きている。しんどいです。何とかありませんか。」

日常の患者さんやご家族との会話の中で、私はよく希望という言葉に出会い、しばし考えこむことがある。「希望って何だろう。」

10年前、まだがんの告知問題が議論されていた頃、がん患者に「あなたの病気は癌ですよ」と知らせることは、患者から生きる希望を奪い、闘病意欲を奪い、無力感を抱かせて死を早めてしまうと信じている医師も多くいた。医師としての長い経験の中で培われた考えでもあったのだと思う。

しかし、時代はインフォームド・コンセントの時代に突入してしまった。つまり、一つの治療を始めるためには、患者さんやご家族に正確な知識を持っていただき、色々な治療方法についての美点／欠点を知った上で、本人の責任において治療法を選びとっていただかなければならないことになった。

今では、癌が疑われるとがん診療連携拠点病院といわれる大病院に紹介されることが多い。そこで詳しい検査を受けた後、専門の医師から、家族とともにこのように伝えられることが多い。

あなたのご病気は、残念ながら「〇〇癌」でした。この癌は、治療の仕方によってⅠ期からⅣ期までに別れますが、あなたの癌はⅢ期ですので、手術を行わず、抗がん剤による治療が標準的な治療法です。抗がん剤は吐き気が出たり、食欲がなくなる、髪の毛が抜ける、感染症に罹りやすくなるなど副作用も強いですが、平均すると余命、つまり生存期間を半年延ばせることがわかっていますので、受けられることをお勧めします。はっきり言いますと、あなたはこの治療をお受けになるのであれば、一年の命が一年半になるということですね。もし、セカンドオピニオンをお受けになりたいのであれば、いつでもおっしゃって下さい。

今晚は、よくご家族で話し合われて、明日ご返事いただけますか。

もし、そのような立場になったら覚悟しておいた方がいいかもしれない。

医療者は、進んだ治療法によって「半年もの」時間を患者にプレゼントできることを誇りに思いたいところであるが、患者にとっては病気が治ることこそが希望であって、残された生存期間が50%延長したところで幸せではない。ましてや、その大部分の期間が抗がん剤の副作用との戦いであるならば、半年の延長された人生を有意義なものとして活用できる人はそんなには多くない。その点も含めて、患者は抗がん剤の治療を受けるかどうかを「自分で」決めなくてはならないことになっている。患者の「希望」にできるだけ沿うことが親切であると考えられるからである。

今年4月、生活習慣や心の持ちかたを変えて、がんを自然退縮させた「元がん患者」に学ぶという趣旨で、ウェラー・ザン・ウェル学会のシンポジウムが東京で開催された。ウェラー・ザン・ウェルとは、がんに罹る前の状態よりも健康な状態という意味である。

がんの自然退縮は、これまで「あり得ないこと」と考えられてきたが、調べてみると結構あって、既に元患者、百数十人が集まっているという。中には医師から見放された元末期の癌患者も含まれている。そして、がんを自然退縮させた人たちには、共通点があるそうだ。その共通点を研究することで、がんが治る条件がはっきりしてくることに期待したい。

学会を創った元NHKディレクター、川竹文夫さんはその著書「幸せはガンがくれた」にこう書いている。希望とは、単なる気休めや慰め、あるいは妄想などでは断じてない。客観的な状況がどんなに悪くても、己の存在を未来に賭け、失われかけた未来に、再び橋を架けようとする強い意志のことではないか。1人の医療者が、持てる経験のすべてを賭けて患者の力を信頼する。患者がそれに全力で応えようとする。そこに生まれたものが希望である。と。

私も医療者であるならば、そのような希望を与えられる医療者でありたいと願っているのである。

緩和ケア認定看護師

当院には、(社)日本看護協会認定緩和ケア認定看護師がいます。

伊東 理砂

この度、当院には(社)日本看護協会認定緩和ケア認定看護師が1名誕生致しました。

認定看護師制度とは、(社)日本看護協会が「特定の看護分野（この場合は緩和ケア分野）において、熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかること」を目的として定めたものです。認定看護師の役割は、①患者様とご家族に熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践すること。(実践)②看護実践を通して看護師(者)に対して指導を行うこと。(指導)③看護師(者)に対してコンサルテーションを行うこと。(相談)の3つの役割が有ります。また、緩和ケア(Palliative care)とは、ひとり一人の個性と家族のつながりを尊重した全人的アプローチにより、それぞれの人の生き方を支えることです。

がん患者様の持つ痛みは、単純に肉体的なものだけでなく、精神的、社会的、スピリチュアル(霊的)なものなど、さまざまに複雑に絡み合っているため、心と身体の痛みを取り除くことが最優先され、苦痛のない状態で最大限のQOLを高め、よりよく生きられるよう援助することがホスピス緩和ケアです。

当院では、地域医療連携室に緩和ケア認定看護師を配置し、患者様やご家族からの緩和ケア相談を受けたり、緩和ケア外来、緩和ケア病棟や在宅ホスピスケアでのケアに関わり、がん患者様とご家族の大切な時間が最大限に生かされるよう、お手伝いさせていただきます。

(緩和ケア相談窓口：088(882)6205 内線113 地域医療連携室※事前にお電話下さい。)



よろしく
お願いします



高知厚生病院 看護部の理念

看護部長 岩本 泉

「看護(介護)」を一言で表すとしたら私は「愛」だと思っています。

高知厚生病院の看護部は、訪れた方、または訪問させていただいたときにお会いした方々のしあわせを最優先に考えてケアを提供しています。

病気も老いもその方の大切な人生の一部であり個性です。ご縁ができた方たちとともに良い時間が過ごせるようこれからも精進していきます。



◆ 高知厚生病院 看護部の理念・基本方針 ◆

理 念

病院の理念に基づきいつでもその人らしい人生を送れるよう思いやりの心を持って質の良い看護を提供します

基本方針（わたしたちの大切にしているもの）

- 皆さんの権利と尊厳を守り一人ひとりを大切にします
- 安全でこちよい療養環境を提供します
- 専門職としての役割を自覚し責任ある看護を行います
- お互いを思いやり成長できる職場作りを実践します
- 地域との連携を図り継続看護を充実させます

通所リハビリテーション

今回は通所リハビリテーションのレクリエーションの一つをご紹介します。

この日のレクリエーションは大収穫というゲームでした。グループで力を合わせてシーツの上の野菜を手を使わずに送っていきます。最後に少しはなれたスタッフのざるに向けてほうり上げる、ざるに入った得点を競うというゲームです。野菜に混じってモグラもあって、モグラがざるに入るとマイナスになる為、知恵と腕とチームワークで野菜だけを運びます。



モグラ

夏祭りのお知らせ



平成20年8月27日(水) 毎年恒例の納涼祭が行われます。周辺にお住まいの方々には、少しのお時間ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解頂けますようお願い致します。

皆様、ふるってご参加下さい。



研究会に参加して

日本ホスピス・在宅ケア研究会 全国大会 in 千葉に参加して

井田 理恵

2008年7月12日・13日の2日間に渡って開催された日本ホスピス・在宅ケア研究会 in 千葉に参加させていただきました。

今大会では、病院内より山口龍彦副院長がスピリチュアル部会「死にゆく人との会話」にて司会を、原一平緩和ケア病棟医長による「高知県における在宅緩和ケアのシステム構築と啓発活動の現況」と題したポスター発表を、伊東理砂連携室室長が「三者（患者、家族、医療者）のコミュニケーションはとれていますか」という題目による基調講演のパネラーを務められました。

この大会には医療者、福祉関係者以外に患者さん、ご家族を含めた一般市民の方々が多数参加されており、市民の方々の介護・医療・福祉に対する思いや意見を知る貴重な機会となりました。また、超高齢化が進むなか行政の制度や施策が目まぐるしく変化し、多様な生活の場での看取りが評価されるようになっていきます。そして「緩和医療」に注目がされ始めました。病を抱えた人々が様々な痛みで苦しむことなく安心した生活を送るために、早期から緩和医療を取り入れ病院・在宅・介護施設・地域とが連携を図りひとつの輪となり、一人一人を支えていかなければいけないことを学ぶことができました。

また、2009年7月11・12日には日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 高知が開催されます。高知大会に向けて各実行委員が、千葉大会を参考にするため会場の設定、人員整備、進行状況などの視察を行いミニカンファレンスを行いました。

これから、皆様の生活の質や心に潤いをもたらすためにも来年の高知大会を成功させなければいけないと感じています。

成功させるためには皆様の力を必要としています。ご協力よろしくお願い申し上げます。

日本ホスピス・在宅ケア研究会 全国大会 in 高知

豊かないのち一大切な人と、大切なときを、その場所でー

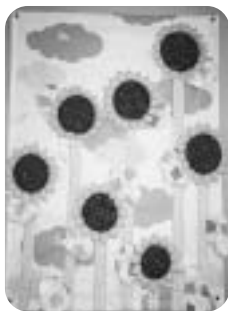
日時 2009年7月11日(土)・12日(日) 午前9時～
7月11日(土)懇親会(別料金、ホームページ参照)

会場 財団法人高知県文化財団
高知県立県民文化ホール
〒780-0870 高知市本町4丁目3-30 TEL:088-824-5321

高知市文化プラザ
かるぽーと
〒780-8529 高知市九反田2-1 TEL:088-883-5011

写真提供：(財)高知県観光コンベンション協会

ほっ。と一息



4階ボランティアさんによる立体感と温かみのある手作りの壁面です。



編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

毎日うだるような暑さを皆様どのようにお過ごしでしょうか？

カキ氷やアイスクリームの食べすぎは……夏バテには大敵ですが、やっぱりこれこれ!!

病院の納涼祭で毎年振舞われるアイスクリンもおいしさ格別です。😊



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>